

20.「こどもの皮膚病」

2008年7月1日 社会福祉法人 江刺保育園

子どもの皮膚病について小幡皮膚科クリニック院長小幡正明先生の講演会資料をもとに皆さんに紹介いたします。子どもの皮膚病を簡単に分類すると、伝染するものと、アレルギーによって発症するものに分けられるそうです。学校に登校できるかできないかで伝染病を分類すると第1種学校伝染病、第2種学校伝染病、第3種学校伝染病



に分けられます。第1種学校伝染病は非常に危険な伝染病で緊急に隔離しなければならない病気です。第2種学校伝染病は、感染した場合、学校とか保育園のように集団で生活することができなくなります。治るまでお休みしなければならない伝染病です。第3種学校伝染病は、流行を防ぐため、学校長が医師の意見を聞き必要ならば、第3種学校伝染病と認定し休んでもらうことがある伝染病だそうです。病気の種類や流行の状況程度によって登校の有無を判断される病気です。伝染病を要因別に分類すると、ウィルスによるもの、細菌によるもの、真菌(カビ)によるもの、ノミとかシラミのような小動物による皮膚病に分けることができます。第2種学校伝染病となっている皮膚病は麻疹(はしか)、水痘(水ぼうそう)、風疹があります。皮膚病ではありませんがインフルエンザ、おたふく風邪も同じ第2種学校伝染病となっています。これらの病気になってしまうとある程度完治しなければ登校、登園することができません。麻疹(はしか)にかかった時、高熱が続きます。またいったん下がっても再度発熱し全身に発疹がでます。発熱している間は他者へ感染します。水痘(水ぼうそう)約半数が発熱し、全身に赤い小さな水を含んだ水泡が生じます。発疹が黒いかさぶたになるまで感染します。風疹は発熱と全身まっかな発疹そして耳の後ろのリンパ節の腫れがみられます。発症の1週間前から腫れている間は他者へ感染します。このほかによく子供たちが罹ってしまう皮膚病としてウィルスに起因するものとして、りんご病、手足口病、みずいぼ、などがあります。細菌に起因するものは、とびひ、真菌に起因するものでは水虫、小動物に起因するものでは、のみ、シラミ、等が挙げられます。一般的に医療の専門でない私たちが、この病気は何であるのかを判断することはできませんので、子供の体調に変化が見られたときは迷わず医師に受診すべきです。また、治ったかどうかの判断も素人判断はせず、医師の指示に従うことが大切です。アレルギー症状としてアトピー性皮膚炎も子どもたちがよく罹る皮膚病です。アトピー性皮膚炎はアレルギーの原因をしっかりと把握しなければなりません。とくに食べ物に対してアレルギーがある場合、原因となる食材を除去した食事を用意する必要があります。中にはソバアレルギーのように激しいショック症状が出て命の危険があるアレルギーもありますので、何かを食べて発疹が出たり、体調が変化したような場合には専門の医師の診断を受けるべきです。別資料として子どもの感染症についての資料を裏面に掲載しましたので参考にしてください。

〈牛肉とごぼうの味噌に〉

材料 4 人分

牛肉 120 g 砂糖 小さじ 4
ごぼう 60 g みりん 大さじ 1
しょうが 4 g みそ 大さじ 1
グリーンピース 20 g

〈作り方〉

- ① ごぼうは、さがきにして水に浸す。(アク抜き)
- ② しょうがをすりおろす。
- ③ 調味料を合わせておく
- ④ 鍋に材料全て入れ炒める。火が通ったら合わせ調味料を入れて煮る。

子どもの感染症

病名	主な症状	感染経路	潜伏期間	他人への感染期間	発症から回復までの期間	保育園などを休む目安
ウイルス性						
はしか (麻疹)	数日の高熱→一旦下がり再び高熱→全身に発疹。 目やに、激しい咳。肺炎・中耳炎・脳炎などに注意	空気感染	10～12日	発熱期	10日～2週間	解熱後3日間は様子を見る。
水ぼうそう(水痘)	約半数が発熱。全身に赤く小さな発疹→水を含んだ水疱→黒いかさぶた→むけ落ちる	飛まつ感染 空気感染	11～20日 (おおよそ14日前後)	発疹出現前日から全発疹が黒いかさぶたになるまで	1週間～10日	全発疹が黒いかさぶたになるまで
風疹	発熱、全身に真っ赤な発疹、耳の後ろのリンパ節の腫れ	飛まつ感染	14～21日	発疹の前後約1週間。特に発疹期	数日～1週間	真っ赤な発疹が目立たなくなるまで
おたふくかぜ(流行性耳下腺炎)	耳下腺(耳の後ろ)の片方か両側が腫れる。頭痛・嘔吐に注意。微熱	飛まつ感染	14～24日	発症の1週間前から腫れている間	1週間～10日	腫れが目立たなくなるまで。ただし、発症から10日以降は腫れが残っていても感染力は低下しているので登園可
インフルエンザ	突然の高熱、頭痛、全身のだるさ、関節・筋肉痛。乳幼児は年長者ほど症状がはっきりしないことがおおい	飛まつ感染 空気感染	1～2日	発症から解熱後1～2日	数日	解熱後2日間は様子を見る
りんご病 (伝染性紅斑)	りんごのほっぺのような頬と手足の網目状の赤い発疹	飛まつ感染	17～18日	発症の1週間～10日前	数日	発症期は感染しないので調子がよければ休む必要はない
咽頭結膜熱(プール熱)	高熱、目やに、なみだ目、結膜の充血、のどが赤くなる	飛まつ感染 便からの感染	5～6日	発症から症状消失までは飛まつ感染と便からの感染、その後は便からの感染	数日	主な症状消失から2日間は様子を見る
ヘルパンギーナ	高熱、口の中の痛みと口の中の水疱性発疹	飛まつ感染 便からの感染	2～7日	発症から症状消失までは飛まつ感染と便からの感染、その後は便からの感染	数日	主な症状が消失後元気がよくなればよい
手足口病	手、足、口(唇の裏や口の手前)に水疱性の発疹、微熱 陰部にも発疹が出ることがある	飛まつ感染 便からの感染	2～7日	発症から症状消失までは飛まつ感染と便からの感染、その後は便からの感染	数日	元気がよくなればよい
流行性嘔吐下痢症	突然の嘔吐、下痢。ロタウイルス(下痢が主)、ノロウイルス(SRSVなど、嘔吐が主)など病原体は多種類	主として便からの感染。飛まつ感染の可能性もあり	1～3日	症状がある期間	2～7日	主な症状が消失後、元気がよくなればよい
みずいぼ(伝染性軟属腫)	体のあちこちに多数できる小さな水疱状のいぼ。自然治癒する	主に接触感染	不定	症状のある期間	数ヶ月～数年	休む必要なし
細菌性						
溶連菌感染症(溶連菌性咽頭炎)	高熱、扁桃の腫れ、赤くざらざらした舌など特徴。全身に赤い発疹がでるしう紅熱など他にもさまざまな症状を伴うことがある	飛まつ感染 飲食物感染もあり	主に2～4日。しう紅熱は1～7日	適切な抗生物質を使用して治療すれば24時間で感染力は消失	1～2日から数日までさまざま	24時間以上適切に治療され、本人の元気がよくなればよい
腸管出血性大腸菌感染症	軽い下痢から、頻回の下痢・水様便、腹痛までさまざま。血便、意識障害などに注意。溶血性尿毒症症候群(HUS)は重症合併症	飲食物や便からの感染	4～8日	症状のある期間は感染力が強いが、症状のない人からも排泄されることがある	さまざま	症状が消失しO-157などベロ毒素を産生する菌が陰性になるまで。ただし、最初から症状がなく病原体のみ検出されたときは、休む必要はない
とびひ(伝染性膿痂疹)	水ぶくれやかさぶたなどが皮膚のあちこちにできる	接触感染	2～10日	症状のある期間	だらだらと続くことも多いが、清潔にすれば早く回復	直接接触を避ければ休む必要はない

平成20年の資料です。対応の変わっている病気があるかもしれません。